

(家庭数配布)



国際理解教育講演会がありました。



5日(金)、とよなか国際交流センターより国際理解教育の講師としてサンティアゴさん(エクアドル)をお招きし、様々なお話を聞くことができました。

内容としては…、

- ★エクアドルと日本の位置関係、エクアドルの首都や観光地や有名な遺跡や歴史
- ★ことば(挨拶・家族の呼び方・色)
- ★食文化や民族衣装や楽器など(料理、民族衣装、産業、音楽など)
- ★子どもの遊び(じゃんけんなど、子どもたちが体験できるもの)

です。

お話の後、低学年はエクアドルのじゃんけんなどの遊びを、高学年は質問を受け付けていただきました。

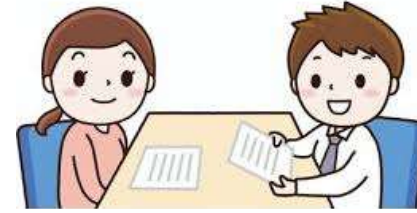
去年は韓国のお話を聞かせていただいたのですが、やはり、国によって考え方や生活習慣、いろいろな違いがありますね。子どもたちだけではなく、私たち教職員も学ばせていただくことが多いです。

体育館でのお話の後、校長室にお越しいただき、少しお話を伺うことができました。やはり私と同じようにサンティアゴさんも、いつまでも終わらない世界各地での戦争・紛争には心を痛めておられるようでした。

学校では様々な国の方にお越しいただき、お話を聞く機会を度々設けています。私が子どもたちに望むことは、ただ単に「文化や習慣について知る」だけではなく、「違いを認める」、そしてそこから「では、違う人とどう折り合いをつけていけばいいのか」を考えるということです。子どもたち1人ひとりにできることは、もしかするとほんの些細なことかもしれません。しかし、それが大きなつながりとなった時、現在の混沌とした世界情勢を変えていくことに結びつくと思っています。私たち教職員は、このことを信じ、今後も様々な取り組みを続けていきます。

◇個人懇談 あいがとうございました！

先週は個人懇談がありました。保護者の皆様には、大変お忙しい中お時間を作っていただき、感謝申し上げます。各学級には多くの子どもがいますので、1人あたりに長時間を割くことはなかなか難しいです。しかし、保護者の皆様と各担任がお互いの顔を見ながら直接お話できることは大きいと思っています。また、2学期末にも機会を設けますので、その際はよろしくお願ひ致します。



※なお、今回の個人懇談は終わりましたが、もし何かあれば、随時、お受け致しますので、遠慮なくお願ひ致します。

◇校長のつぶやきコーナー「自分の評価は誰がするのか？」

唐突ですが…、「自分がどんな人間なのか？」と考えられたことはありますか？

「自分の人間性は？」

「自分は他人に優しくできているのか？」

「自分はその所属する組織にどんな影響を与えているのか？」

人それぞれ、自分に対して何らかの評価をしているでしょう。しかし、「自分はこんな人間だろう。」と自分への評価を自分だけで完結してしまうと、損をしてしまうように思います。私がこんなことを考えるきっかけになったのは、ある人の「**自分の評価は自分ではしないと決めている。**」との言葉を聞いてからです。

例え話をします。飲食店を営んでいるとして、料理がおいしいかどうか、決めるのはお客さんであってお店ではありません。また、メーカーが作る機械が便利なものかどうか、これも決めるのはユーザーです。どちらも評価者はサービスを受ける側ということになります。

人間についても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。時に他人から厳しい評価(指摘)を受けることがあります。自分のことを悪く言われるなんて、あまり嬉しいことではありません。耳障りです。しかし、「**耳障りであったとしてもいったんは受け入れて、自分にとってはどうなのかと考えられるかどうか？**」、ここが大きな分岐点です。自分で自分に自信を持つことはとても大切。その上で、「**自分の言動の良し悪しを決めるのは自分ではなく他人である。**」とも思っておけば、そんな人はより良くなっていくことは間違いありません。

以上のことは私自身ができればいいなと思っていることであって、この考えを皆様に強要するつもりはありません。皆様それぞれのお考えがあつて大いに結構。皆様の人生ですから好きなように生きてくだされば、それでいいのです。ただし、自分を正しく評価しない方が間違っているのだと、その厳しい評価(指摘)を懸命に突き返そうとしている人も何人か見てきましたが、そのような人は何年経ってもほぼ進歩がなく、いつまでも同じことで悩んでいたように思うことだけはお伝えしておきます。